

くり返しが何より大好き

“親子で一緒に読むためのお話”をしましょう。そこでまずその利用の仕方や注意を述べたいと思います。学習は、広く多くのお話を“学ぶ”ことよりも、たった一つのお話でもこれをくり返しくり返し“習う”ことの方が有効です。これっぽっちとばかりにしないで大いに活用していただきたいと思います。幼児は、母親からお話を聞くこと、母親に物語りを読んでもらうことを、何よりも喜ぶものです。それは、そうすることによって子供が言葉を理解し、覚え、言葉を使うことが出来るようになるために必要なことだからです。

人間の心を“精神”と呼んでいますように、心の働きは神が人間に与えて下さったものの最も精妙なものですが、それは言葉の働きそのものにほかなりません。

バイブルに「初めに言葉ありき。言葉は神なりき」とありますが、人間の心が言葉の働きであるからには、人間の心を“精神”と名付けたこともさることながら、このバイブルの叙述くらい言葉の偉大さを表現した文章はないと思います。

この“神”である言葉により、子供の心は磨かれて“精神”にと高められていくのですから、言葉の教育ほど大切な教育はない、ということが出来ます。しかし、この“言葉の教育”は、言葉そのものを子供に教え込もうとしても、決してうまく行きません。

それよりも、毎日子供の喜ぶお話をくり返して聞かせることが、効果の高い“言葉の教育”法なのです。子供は、好きな話は何回聞いても決して飽きることはありません。子供のその要求に応じて何回でもくり返してお話をしてやるのが大切です。

私も30年前、毎日毎晩、子供にせがまれて話をしてやったものです。子供は決して新しい話をせがみません。毎日毎晩、同じ話を聞きたがるのです。それも一度や二度では満足しません。終わるや否や「もう一回して」と言うのです。

そのくらい子供は“くり返し”が好きです。だから、子供の好きなお話は、決して“くり返し”があります。桃太郎では、「桃太郎さん、桃太郎さん。お腰に着けたものは何ですか」に始まる問答は三回くり返されます。猿蟹合戦でも、蟹が水をやりながら「早く芽を出せ柿の種、出さぬと鉄でちょん切るぞ」というせりふをやはり三回くり返します。子供

はこのくり返しが大好きで、その三回目に子供の喜びは最高潮に達します。

だから、この三回目のせりふは、特に力を込めて芝居気たっぷりに話してやらなければなりません。そうすれば、子供もそれに合せて得意気にせりふを語るでしょう。ところが、この三回目を省略してしまう親が多いのです。これでは楽しさは半減し、言葉の学習効果も半減してしまいます。

避けたい“クライマックス”の省略

半減は誇張ではありません。実際はむしろそれ以下なのです。なぜなら、学習効果は子供の興味関心に正比例するので、子供の期待を裏切る“クライマックスの省略”はとても“半減”どころでは済みません。大人は子供と正反対で、くり返しが苦痛です。だから、省略したい気持はよく解りますが、ここは子供のためを思って辛抱しなければなりません。

ここに幼児の姿、幼児の本性がよく表現されていると思います。幼

児に一度や二度の刺戟ではまず何の効果もない、と言って決して言い過ぎではありません。三度めからが価値が出て、くり返すたびに効果が倍増するように思われます。

ところがたいていの親は、自分がくり返しを好まないのと、くり返しは現状維持で進歩ではない、と思っているものですから、次から次と新しいお話をしてやり新しい刺戟を与えることに努力します。

しかし、そういう新しいお話は、一度や二度では受け入れることがむずかしく、受入れても消化がよく出来ませんので、子供の心を養うまでに至らず、いつともなく子供の頭から消え失せてしまいます。

だから、新しい刺戟を次から次と子供に与えることは全く無益です。与えなかったと同じことです。しかし、無益だけで済めばまだよろしい。もしもそのために、反復嫌いの子供になったら大変です。

くり返しは、一見無益な行為に見えますが、これほど大切なものではありません。回を重ねるごとに習熟し、身につき、能力が伸びるので、くり返しはいくらくり返しても、多過ぎるということはないものです。